



「B卓の注文」

2016/10/1 - 10/13
nicolas

人は喫茶店で、隣の席の会話や素振りを意識してしまう。
逆に、隣の人に自分が意識されていることも意識しているように思う。

A卓の会話がB卓のテーブルの話の発端になったり、
B卓の料理を見て、A卓の人が同じ料理をオーダーする、というように。

自己と他者が微妙な距離感をとりつつ、時にその境界線を越え
お互いが影響しあって過ごす場所での相互作用について考察し
その状況下で作品を制作。すなわち、
喫茶店で隣の席を意識し / されながら、できた作品を "喫茶店" で展示する。

また、作家は展示期間中しばしばこの "喫茶店" を訪れ、
隣の席で絵を描く人として、他者の意識に浸透する。

作品タイトルは描いている時、隣の席から聞こえて来た言葉を引用しています。

1. 違いが分かる男のどうたらこうたら
2. ママはいつまでたってもほめてくれない
3. 場所があればどうにかなる
4. 静かな二人
5. 緊張を解くほうのエクササイズ
6. 全然興味ないでしょ
7. パパの彼女の親友
8. 5人のしゃべる女の隣
9. A卓) それが良いんだかなんだかわかんないんだけど
B卓) 聞いているんだか聞いてないんだかよくわかんないんだけど
10. なんかそういうのいいな

